

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 5 1 回相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会				
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 1 5 (直通)				
開催日時		平成 2 9 年 4 月 2 7 日 (木) 午後 7 時から 8 時 5 0 分まで				
開催場所		けやき会館 2 階 大研修室				
出席者	委員	1 1 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	1 3 人 (こども・若者未来局次長、他 1 2 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 委嘱状交付 3 こども・若者未来局 次長あいさつ 4 委員の自己紹介 5 議 題 (1) 専門分科会長の選出について (2) 職務代理者の指名について (3) 民間保育所の認可廃止及び設置認可について 6 そ の 他 (1) こども・若者未来局の設置について (2) さがみはら児童厚生施設計画について (3) 平成 2 9 年 4 月 1 日現在の保育所等利用待機児童数について 7 閉 会				

主な内容は次のとおり。【 は委員の発言、 は事務局の発言】

1 開 会

2 委嘱状交付

3 こども・若者未来局 次長あいさつ

4 委員の自己紹介

5 議 題

(1) 専門分科会長の選出について

委員の互選により、大溝委員が選出された。

(2) 職務代理者の指名について

竹下委員が指名された。

(3) 民間保育所の認可廃止及び設置認可について

保育園の運営主体が変わることにより、保護者や在園児の環境に変化は生じるのか。

職員の退職や配置変更もないため、その心配はないと考えている。また、経営基盤の安定や、社会的信用という面からは保護者の方へ安心感を与えることができるのではないかと考えている。

保護者から意見等は挙がっているのか。

特に挙がっていない。

市として、今後、法人等の統廃合が増えると認識しているのか。

幼保連携型の認定こども園への移行などの相談は今までもあったが、今回のようなケースは初めてである。

個人立の認可園は、市内にほかにもあるのか。

現在1件のみで、今回の統合で0件になる。

当事者同士はおそらく時間をかけて調整したのであろうが、その中で行政に相談はあったのか。

相談は過去からあったが、具体化したのは最近である。ここで両者の思惑が合致したため、早期の統合を希望されている。

給与体系について、すぐに統合することは難しいため、当面は2つの給与体系で運営

するとのことだが、2つの園を統合していくとなると同じ給与体系にしていく必要があると思うが、将来的な改善を行うということで話し合いはついているのか。

相互によい方へ統合していきたいという話があった。

待機児童の将来動向について、行政では考えを持っているのか。

未就学児は毎年500人程度減ってはいるが、保育の申し込みについては増えており、今後もその傾向は続くと考えている。保留児童については、地域により偏りがあるため、保育園を作る場所や数について考えていかななくてはならないと認識している。

6 その他

(1) こども・若者未来局の設置について

資料に基づき、担当課から説明を行った。

(2) さがみはら児童厚生施設計画について

資料に基づき、担当課から説明を行った。

児童クラブの対象者は小学校6年生までとなるのか。

現在、1年生から3年生までを対象としており、待機児童が昨年5月1日の段階で236名いた。対象年齢の拡大よりも既存の対象者の受け入れをまず考えているところであるが、待機の生じていない地域もあるため、可能な場所から対象年齢の拡大を検討していきたい。

障害児の受け入れについて、困っている保護者が多くいると認識している。このことに強く気をとめて推進してもらいたい。

放課後等デイサービスも増えてきているが、児童クラブとは違う環境に子どもが置かれている。障害の有無で対応があまりにも違うのはどうかと思う。障害の有無にかかわらずいろいろな交流ができるよう総合的な対策を検討していただきたい。また、子どもが巻き込まれる犯罪が大きく報道されているので、待機児童対策についても早急に対応していただきたい。

障害の有無にかかわらず、同じ場所で育成していきたいと考えている。そのためには職員の知識やスキルが必要となるので、さまざまな機関と連携して研修の支援等をいただきたいと考えている。

保育所にいる間は良かったが、小学校に上がることで戦々恐々としている保護者もいることと思う。特に障害等がある子どもについては、さまざまな部分での検討をお願いしたい。

(3) 平成29年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について

資料に基づき、担当課から説明を行った。

保育所の利用希望者が11,970人で定員が12,641人となっているが、700人くらい空きがあるということか。

地域によってミスマッチが起きてしまっているため、そのような数字になっている。相模大野駅や橋本駅、淵野辺駅北口などでは保留児童が生じている一方、それ以外のところでは空きがでている状況である。また、1、2歳児の利用希望が多い一方で、3、4、5歳児の部分で空きがあるという状況も見受けられる。

他市では3、4歳児の枠を使って1、2歳児を限定して受け入れているところもあると聞いているが、そういったことを相模原市では実施しないのか。

1、2歳児を多く受け入れるとなると、それなりの体制を整える必要が生じることから、保育の質という観点から言うと一定の規模以上の受け入れというのには課題があると認識している。

ミスマッチという話があったが、今後、市は空きのある地域についてどのように対応していこうと考えているのか。また、出生数が減っていくという状況の中で、今足りていないところも余っていくと想定されるが。

一つの策として考えられるのはサテライト保育だが、長距離の移動が小さい子どもの負担にならないかなど課題もある。可能性としては検討していきたい。また、出生数が減っていくということに関しては、32年度以降の新たな子ども・子育て支援事業計画の中で適正な受け入れ枠について考えていきたい。

保育所の利用申し込み率が上がってきていることは確かだが、その理由や今後どうなっていくのかということも併せて考えなくてはならないのではないかと。また、子どもを預けなくても何とかできるようにしていくことも、重要だと考える。

保育所に預けている方は12,000人弱おり、家庭で育てている方も同数程度いる。子育てで広場等の事業の充実をすることで、そうした方々への支援を行っていきたいと考えている。

自宅で子育てをするという選択をした方々の子育てが成り立つような政策をいろいろな切り口から検討していただきたい。

相模原市内にいる潜在保育士の数は把握しているのか。

把握していない。

全国にいる潜在保育士は70万人といわれているが、これは養成側が出している数字であり、おそらくどの都市でも把握できていないと思う。

資格を持っているからといって、苦労せずに現場に入っているというわけではない。潜在保育士がいるからその人たちを活用すればよいという単純な問題ではない。

相模原市内には、保育士が足りなくて定員を少なくしている保育園がいくつかある。待遇の面で他市と勝負するのも、魅力で勝負しようとするのも難しい。相模原市全体が子育てにやさしいまちであるというところからアピールしなくてはならないのではないかと。例えば、こどもセンターも一日親子で過ごせるような開放感のある場所になってほしい。

子どもだけではなく、保護者も夢や希望を持って子育てをできるまちにしていきたいというのが専門分科会全体の願いである。この会の意見を何らかの形で活かしてほしい。

地域で開催している子育てサロンなどの子育て支援事業をもう少しアピールしていきたいのだが、個人情報保護の関係で、低年齢の子どもがいる家庭の情報をもらうことができない。健診などの際にもっと地域資源を活用し、次のステップへとつなげてほしい。

4 か月健診などは、そういった場として使えるのではないか。簡単にできることから取り組んでほしい。

4 か月健診の際には、子育て広場等を案内しているが、地域のさまざまなところでの活動まですべてPRできているということではない。

文字だけで見るのではなく、顔が見えるとより参加しやすくなると思う。

子どもの問題というのは、特定の一つの組織や団体で解決できる領域ではない。地域の様々な方が関れるよう、行政はうまく風通しをよくしていただきたい。

その点で、平成29年度より組織改正を行った。今までは保健所で行っていた母子保健の分野を子どもの施策と一緒にやっていくということが大きな目的の一つである。情報共有を図り、充実させていきたいと考えている。

次回の分科会については、7月頃の開催を予定し、詳細が決まり次第、通知させていただくこととした。

7 閉 会

児童福祉専門分科会 委員名簿
市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 委員名簿

(平成29年4月27日)

番号	氏名	役職・推薦団体	備考	出欠
1	はら ひろこ 原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
2	とつか ひであき 戸塚 英明	相模原市社会福祉協議会		出席
3	うちだ のりこ 内田 紀子	相模原市私立保育園園長会		出席
4	かわ さき ひさし 川崎 永	相模原市幼稚園・認定こども園協会		出席
5	たがわ つぐよ 田川 継世	相模原市母子寡婦福祉協議会		出席
6	おおみぞ しげる 大溝 茂	桜美林大学教授	専門分科 会長	出席
7	たけした まさゆき 竹下 昌之	相模女子大学常務理事	職務代理	出席
8	さくらい なつこ 櫻井 奈津子	和泉短期大学教授		出席
9	おおにし てるよし 大西 輝佳	相模原市立小中学校長会		欠席
10	あいざわ ゆみ 相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		出席
11	しながわ よういち 品川 洋一	相模原市医師会		出席
12	たじま としき 田島 敏樹	相模原市医師会		出席